

登録コード	SF416100	開講年度	2026						
授業題目	野外調査実習						担当教員	牧田 直樹 他	
英文授業名	Field Practice in Environmental Science						副担当	村越 直美・榊原 厚一	
単位数	1	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期		対象学年	1年	
講義室				授業形態	実習	遠隔授業科目		備考	必修
信大コンピテンシー	非該当								
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】			
	2 6 Sカリ, 2 5 Sカリ, 2 4 Sカリ, 2 3 Sカリ								
	【2023年度以降加付対象】理学の各分野における専門知識					物質循環の研究対象となる様々な自然と自然現象を調査・観察する．			
	【2023年度以降加付対象】専門知識や観察・実験などによって問題を理解・解決し、その成果を的確に他者に伝える力					物質循環の研究対象となる様々な自然と自然現象を調査・観察することにより、自然科学に興味を持ってもらうことと自然科学の目で理解・表現すること．			
	【2023年度以降加付対象】理学の基礎知識と専門知識を活用して課題を発見し取り組み、その成果を社会に役立てる力					自然科学における知識と理論を深く学び、その法則性を理解し説明できる．			
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生								
(3)全学横断特別教育プログラム	環境マインド実践人材養成コース								
(4)授業の概要	信州大学合宿研修施設などを利用して、物質循環に関する調査・研究に必要な基礎的な自然観察を行い、観察・測定事項をレポートにまとめる．								
(5)授業のキーワード	・自然観察 ・自然の見方								
(6)授業計画	実習内容：植生調査，地形・地質の観察，河川の水質調査，極限環境に住む生物の観察など．生態システム系の実習と地球システム系のグループ実習をそれぞれ1日程度行う． 実習は8-9月に行う予定である．また，授業（実習）の最後に授業のふりかえりを入力する．								
(7)成績評価の方法	実習後に提出されたレポートによる．								
(8)成績評価の基準	レポートを課す教員全員分のレポートが出ていることが必要． 現地で説明されたことや調査したことがまとめられていれば標準的なレベルとする．これに加え，自分が実習後に調べたことなど，発展的な内容がレポートに記載されていれば，その程度に応じて「やや上」，そうした記述が多ければ「かなり上」，すべての項目にそうした発展的な記述がされていれば「卓越したレベル」と評価する．								
(9)事前事後学習の内容	事前学習では，自分たちが訪れる上高地・乗鞍山などについてどのような自然が見られるのかをあらかじめ自分たちで学んでおく．事後学習はレポートの作成による．								
(10)履修上の注意	・学外の宿泊施設を利用するため，バスによる移動，宿泊や食事に料金がかかるのであらかじめ了解しておくこと．過去の例では1万円程度． ・野外で作業を行うので，作業しやすい装備で臨むこと． ・実習の前に詳しい内容を掲示するので注意すること．								
(11)質問,相談への対応	担当教員が随時受け付けます．								
【教科書】	指定しない．分野の担当教員が作成したテキストを配布する．								
【参考書】	必要な資料はこちらで作成し，配布する．								